東京都教育会　第３分科会発表者　森岡　耕平

みんなで創る楽しい道徳科の授業　－指導と評価に向けて－

１　道徳科の授業で目指すことは何か

　　次のような声が聞こえてくる楽しい授業を目指したい。

「えっ、それってどういうこと？」（考えてみたくなる問いがある）

　「自分はこう思うのだけど…」（発言しようと思う空気、否定されず受容される雰囲気がある）

　「どうしてそう思うの…」（対話がある）「そんな考えもあるのか…」（驚きと発見、気付きがある）

　「疲れた～」（深く考える時間がある）「でも、なんか楽しかった」（温かい空気がある。）

２　道徳科の授業をどう準備するか

「生徒に何を考えさせたいのか」を明確にするための教材分析と発問づくりを大切にする。

分かりきったような答えを言わせるような問いではなく、ちょっとだけ難しくて、多様な考え方が表れる問いを精選する。

この授業の中で、何を考えさせたいか、教材のどこで考えさせたいか、それを考える時間を確保する。

①場面を分ける

②言動を押さえる

③心の動きをつかむ

④描かれている道徳的価値の展開を読む

３　道徳科の授業をどう実践するか

本時の授業を振り返る。

自分を振り返る。

感想も「話す」から「書く」

Ａ君⇔Ｂ先生、ではなく、

Ａ君⇔Ｃさん⇔Ｄさん…

(つなぐのがＢ先生)

「ｸﾞﾙ-ﾌﾟ」より「全体」

「書く」より「話す」

①教材への導入

②価値への導入

③授業への導入

どれでもよい。ねらいも示さなくてよい。短く。

４　道徳科の評価をどうするか

　　〇授業中、教材を読んでいる様子、友達の意見を聞いている様子、自分の考えを発言したり話し合ったりしている様子を捉える。特に書くことが苦手な生徒の様子は必要に応じてメモする。

　　〇ワ－クシ－トの記述からその生徒が最も言いたかったこと、考えたことにアンダ－ラインを引く。

　　〇一人一人の生徒の心に届く言葉で励ましのメッセ－ジを書く。

基本的な指導案づくり

□各学年の道徳担当が指導計画、指導案例を作成する。(水曜日１時間目道徳部会)

□授業者は指導案例を参考に学級ファイル(教材分析シ－ト)を活用し、自分の授業をつくる。

□ワ－クシ－トの生徒の意見を読み、アンダ－ラインでその生徒の考えを受けとる。

□授業中の生徒の様子を記録し、学級ファイル(「教材分析シ－ト」)に記録する。

1 主題名「○○○…」(教材と内容項目から)　内容項目　新学習指導要領に基づく「キ－ワ－ド」を標記

2　教材名「○○○…」（出版・出典元や著者）

★指導観（価値観、生徒観、教材観）

・ねらいとする価値を明確にする

・ねらいとする価値に関わる生徒の様子

・活用する教材の特質や取り上げた意図

3　主題設の理由

1. ねらいとする価値「○○○………」（価値観）
2. 生徒の様子（生徒観）
3. 資料について（教材観）

４　ねらい「～を通して(教材や資料の場面)、○○しようとする(ねらいとする価値)★★(心情、判断力、意欲、態度)を育てる。」

５　指導過程

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習活動 | 発問と予想される生徒の反応 | 指導上の留意点 |
| 導  入 | ☆価値への導入、教材への導入、授業への導入、雰囲気作り | ・数名の生徒へ問い掛け、場の雰囲気づくり | ・簡潔に時間を掛けない。  ・教材によっては歴史的地  理的背景を押さえる。 |
| 展  開 | ☆教材を通してねらいとする道徳的価値の自覚を深める  ・範読を聞く  「誰が変化したか」  「きっかけは何か」  「何で変化したのか」  を考える。  対話を重視する  ・教材との対話  ・仲間との対話  ・自分との対話  書く活動  ・考え、意見交換し  てから書く。  (ﾜｰｸｼ-ﾄの活用) | ☆道徳的な「問題の起こり」を押さえる  ☆「悩み、葛藤」の様子をつかむ  ☆変化をしたところを確認する  ☆きっかけとなったことを押さえる  ★中心発問　授業の山となる発問。  (文中に書かれていないことを聞く)  ☆問い返しの発問　生徒の発言を問い返す。  なぜそう考えたか  多面的・多角的に考えを広げる    　 　自分事として考えを深める  ◎じっくり考え、語り合う。深める。  ☆「変化の後」を押さえる | ・教師が範読する。  ・中心発問に導くために時  間を掛けず、心情だけでなく考えを押さえるために、基本発問は1～2問。  ・考えたいことを明確に。  ・問い方の一例  「どんな考えで…」判断力  「どんな気持ちで…」心情  「どんな思いで…」態度  ・思考を深めるための板書。  ・語り合うことが優先。 |
| 終  末 | ・授業の感想をまと  める。 | 今日の授業について考えたこと、気付いたこと  等を数名に発表させる。その後に感想を書く。 | ・余韻を残して終わる。 |

６　評価　　ねらいに対し、期待する「心情」・「判断」・「意欲」・「態度」の様子を押さえる。授業を通して、生徒が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させることができたか、ねらいとする価値について自分自身との関わりの中で深めることができたか評価する。

「道徳科」の評価に向けて　-その考え方と進め方-

「特別の教科　道徳」の目標は…

「（人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共に）よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」

道徳科における評価の意義

|  |
| --- |
| 『生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。』  (「第3章　特別の評価　道徳」の「第３　指導計画の作成と内容の取扱い」の４」) |

１　道徳科における評価の基本的な考え方

(１)数値による評価ではなく，記述式であること。

(２)個々の内容項目ごとではなく，大くくりなまとまりを踏まえた評価を行うこと。

(３) 他の生徒との比較による相対評価ではなく，生徒がいかに成長したかを積極的に受け止め，励ます個人内評価として行うこと。

(４)学習活動において生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること。

(5)道徳科の学習活動における生徒の具体的な取組状況を一定のまとまりの中で見取ること。

２　道徳科の評価の方向性　(「中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編」平成29年7月)

指導要録においては当面、一人一人の生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子について、発言や会話、作文・感想文やノ－トなどを通じて、

(1)他者の考えや議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか、

➀道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしている。

⇒視点1　「考えようとしている」

➁自分と違う意見を理解しようとしている。

⇒視点2　「聞こうとしている」

1. 複数の道徳的価値の対立する場面を多面的・多角的に考えようとしている等。

⇒視点3　「広げようとしている」

(2)多面的・多角的な思考の中で、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか、

④読み物教材の登場人物を自分に置き換えて具体的に理解しようとしている。

⇒視点4　「探ろうとしている」

⑤現在の自分自身自を振り返り、自らの行動や考えを見直している。

⇒視点5　「見直そうとしている」

⑥道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めている。

⇒視点6　「深めようとしている」

⑦道徳的価値を実現することの難しさを自分事として捉え考えようとしている等。

⇒視点7　「結び付けようとしている」

といった点に注目して見取り、特に顕著と認められる具体的な状況を記述する。視点１～７の「」内の言

葉は視点を分かりやすく示すための一例である。この表現に縛られず、評価者が自分の言葉に置き換えて

構わない。

(3)評価に当たっては、生徒が一年間書きためた感想文をファイルしたり、１回1回の授業の中で全ての生徒について評価を意識して変容を見取るのは難しいため、年間３５時間の授業という長い時間で見取ったりするなどの工夫が必要である。

(4)道徳科における学習状況や道徳性に係る成長の様子の把握は、「各教科の評定」や「出欠の記録」等とは基本的な性格が異なるものであることから、調査書に記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにする必要である。

3　道徳科の評価の進め方

(1)授業の中での評価の進め方

　・教材を読む。発問を考える。他者の意見を聞く。自ら発言する。話し合う。その様子を見取る。

・ワ－クシ－トを活用し、考えたことを文章化させる。ただし、書く力だけを評価するものではない。

　・ワ－クシ－トは「自分の気付きや考えたこと」、「印象に残った友達の考えや話し合ったこと」、そし

て「授業の感想」が記述できるものを用意する。

　・授業後に、ワ－クシ－トの意見にアンダ-ラインを付加する。（認め、励ます個人内評価の見方を磨く）

　　(生徒が深く考えたこと、気付いたこと、一番言いたかったことを見取る。)

・書くこと、発言することが苦手な生徒には、机間巡視、声掛けから、様子をつかむ。授業メモの活用。

　(2) 通知表への表記　学期ごとの評価（１学期・２学期・学年）で考える

**・10～12時間の授業を大くくりとする。**

**・「道徳の授業を振り返って」(評価シ－ト)を活用し、**2つの方向性と7つの視点で読み取り、認め、励ます言葉で評価する。

　・1回の授業の見取りで評価できる生徒は限られている。複数回の中で見取る。評価する取組状況は、必ずしも回を追うごとにプラスの方向にのみシフトするものではない。

　・1人の授業者（担任）の目で見て、見えるものと見えないものがある。ロ－テ－ションで授業者が変わることにより、見える部分を生かして、指導と評価をつなぐ。

　・担任(授業者)の思いを込めた表現で、一人一人の生徒の心に届くそれぞれのメッセ－ジを考える。

(3)要録への表記

　・授業の中で一面的な見方・考え方が多面的・多角的になっている様子。自分事として深く価値を考えている様子を捉えた表現。話し言葉、メッセ－ジ表現ではない書き方で学習の記録とする。

4　道徳科の評価にとって大切なこと

・評価が生徒の心に届く授業者からのメッセ－ジとなるためには、「生徒の理解」、「生徒からの信頼」が

必要不可欠である。一人一人の生徒について、本人が気付いていないよさや持ち味を伝えたい。

　・評価に向けて授業を振り返る際、授業記録を取ることが有効である。一人一人の生徒の授業の様子を捉え、評価につなげることは、次の指導に向けて授業どう改善すべきかを捉えることつながる。

**＜授業メモ＞**　※発言や書くことが苦手な生徒の様子をメモする

　　　 ※評価活動が授業の妨げにならない程度の走り書き、メモとする。

月　　日（　）　年　　組　授業メモ　　授業者

教材名「　　　　　　　　　　　　　　　」　内容項目　「　　　　　　　　　　　」

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 番 | 名　　　前 | 見ている・読んでいる・聞いている・話している |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |

令和〇年度　〇〇中学校

第一学年　道徳科　学習の記録シ－ト

　　　　年　　　　組　　　　番　名前

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 回 | 月 | 日 | 曜 | 教　　　　材　　　　名 | 授　　業　　者 |
| 1 |  |  |  | 各学年の教科書から35時間分の教材名を記入する | 先生 |
| 2 |  |  |  |  | 先生 |
| 3 |  |  |  |  | 先生 |
| 4 |  |  |  |  | 先生 |
| 5 |  |  |  |  | 先生 |
| 6 |  |  |  |  | 先生 |
| 7 |  |  |  |  | 先生 |
| 8 |  |  |  |  | 先生 |
| 9 |  |  |  |  | 先生 |
| 10 |  |  |  |  | 先生 |
| 11 |  |  |  |  | 先生 |
| 12 |  |  |  |  | 先生 |
| 13 |  |  |  |  | 先生 |
| 14 |  |  |  |  | 先生 |
| 15 |  |  |  |  | 先生 |
| 16 |  |  |  |  | 先生 |
| 17 |  |  |  |  | 先生 |
| 18 |  |  |  |  | 先生 |
| 19 |  |  |  |  | 先生 |
| 20 |  |  |  |  | 先生 |
| 21 |  |  |  |  | 先生 |
| 22 |  |  |  |  | 先生 |
| 23 |  |  |  |  | 先生 |
| 24 |  |  |  |  | 先生 |
| 25 |  |  |  |  | 先生 |
| 26 |  |  |  |  | 先生 |
| 27 |  |  |  |  | 先生 |
| 28 |  |  |  |  | 先生 |
| 29 |  |  |  |  | 先生 |
| 30 |  |  |  |  | 先生 |
| 31 |  |  |  |  | 先生 |
| 32 |  |  |  |  | 先生 |
| 33 |  |  |  |  | 先生 |
| 34 |  |  |  |  | 先生 |
| 35 |  |  |  |  | 先生 |

一学期の学習のまとめと評価

|  |
| --- |
| □今学期、最も心に残った授業　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　月　　日（　　）  ■その授業で深く考えたこと、その授業が心に残った理由 |

二学期の学習のまとめと評価

|  |
| --- |
| □今学期、最も心に残った授業　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　月　　日（　　）  ■その授業で深く考えたこと、その授業が心に残った理由 |

一年間（三学期）の学習のまとめと評価

|  |
| --- |
| □今学期、最も心に残った授業　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　月　　日（　　）  ■その授業で深く考えたこと、その授業が心に残った理由 |

　　　　年　　　　組　　　　番　名前

〇〇中学校

道徳科シラバス　学習と評価について

１　道徳科の学習は何のためか

道徳科の学習では、人としてよりよく生きる上で大切ことは何か、自分はどのように生きるべきかなどについて考えます。私たち人間は様々な社会を形成し生きてきました。その社会は実に多くの異なる言葉や生活、文化や伝統に支えられ、時代と共に関わりを深め、発展しています。

人として幸福な生き方を求める中では、時に対立する場合もあります。それは将来、皆さんの人生の様々な場面で起こりえるものです。その時、皆さんが悩み、葛藤しながら自分自身の判断で生き方を決めていくために道徳科の学習があります。

人には多様な考え方や感じ方、受け止め方があります。だからこそ対話を通して相互理解を図り、協働することが大切になります。これまでの自分の考えを広げたり、深めたりしながらよりよい生き方、在り方を目指すために道徳科の学習に取り組みましょう。

２　道徳科の学習では何をするのか

**(１)「自己をみつめる」**

教材や資料を通して、自分であれば、どんな気持ちになるか、どんなふうに考えるか、どのようにしようと思うかなど、当事者になったつもりで心の中を考えます。

他人事として評論するのではなく、「自分ならどうするか。」と行動を考えるだけでなく、「なぜ、そうするのか。」を自分に問います。

**(２)「多面的・多角的に考える」**

物の見方や考え方は人によって異なるものです。従って、道徳の学習には唯一の正解があるわけではありません。友達の意見をよく聞き、自分の考えを語り、対話を広げます。

**(３)「人間としての生き方について考えを深める」**

道徳科の学習の中で得た気付きや発見から、これまでの自分の生き方を振り返り、よりよい生き方を考えます。

３道徳科の学習内容とは

　道徳科の学習内容は、次の４つの視点から示された２２の内容項目を指します。

**★「Ａ 主として自分自身に関すること」**

→自分の在り方を見つめ，望ましい自己の形成を図るために考えたいこと。

(１)自主、自律、自由と責任　　(２)節度、節制　　(３)向上心、個性の伸長　(４)希望と勇気、克己と強い意志　　(５)真理の探究、創造

**★「Ｂ 主として人との関わりに関すること」**

→自分を人との関わりにおいて捉え，望ましい人間関係の構築を図るために考えたいこと。

(６)思いやり、感謝　　(７)礼儀　　(８)友情、信頼　　(９)相互理解、寛容

**★「Ｃ 主として集団や社会との関わりに関すること」**

→自分を様々な社会集団や郷土，国家，国際社会との関わりにおいて捉え，国際社会と向き合い、日本人としての自覚に立ち，平和で民主的な国家及び社会の形成者となるために考えたいこと。

(10)遵法精神、公徳心　　(11)公正、公平、社会正義　　(12)社会参画、公共の精神　　(13)勤労

(14)家族愛、家族生活の充実　　(15)よりよい学校生活、集団生活の充実　　(16)郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度　　(17)我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度

(18)国際理解、国際貢献

**★「Ｄ 主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること」**

→自分を生命や自然，美しいもの，気高いもの，崇高なものとの関わりにおいて捉え，人間とし

てよりよい生き方について自覚を深めるために考えたいこと。

　(19)生命の尊さ　　(20)自然愛護　　(21)感動、畏敬の念　　(22)よりよく生きる喜び

４道徳科の学習活動

(1)教科書を中心に学習します。時には視聴覚教材やその他の資料を活用します。

(2)授業のねらいに深くかかわる発問について考えます。

(3)ペアで、グル－プで、学級全体で話し合い、考えを広げたり、深めたりします。時には動作化、役割演技等の表現活動にも取り組みます。

(4)ワークシートを活用して、発問についての自分の考えや友達の考え、授業の感想をまとめます。

５道徳科における評価の意義

(１)学習活動の中での発言や会話、感想やワ－クシ－トの記録から、より多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を評価します。

(２)数値による評価ではなく，上記(１)の様子を記述式で評価します。

(３)他の生徒との比較ではありません。いかに成長したかその様子を認め、励ます評価です。

(４)学期ごとに学習状況を「道徳科　学習の記録シ－ト」にまとめ、通知します。

６道徳科の指導計画（第一学年）

　毎週１回、年間３５時間の授業に以下の教材で取り組みます。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時数 | 教　　材　　名 | 時数 | 教　　材　　名 |
| 1 | 自分で決めるって？ | 19 | 私が働く理由 |
| 2 | 自然教室での出来事 | 20 | 仏の銀蔵 |
| 3 | さよならの学校 | 21 | なおしもん |
| 4 | ひまわり | 22 | 鳥が見せてくれたもの |
| 5 | ヘレンと共にーアニー・サリバン | 23 | 日本のお米 |
| 6 | いちばん高い値段の絵 | 24 | 異文化の人々と共に生きる |
| 7 | 私の話を聞いてね | 25 | 命の木 |
| 8 | 席を譲ったけれど | 26 | 銀色のシャープペンシル |
| 9 | 一粒の種 | 27 | 栄光の架橋 |
| 10 | 魚の涙 | 28 | 裏庭での出来事 |
| 11 | 捨てられた悲しみ | 29 | 「養生訓」より |
| 12 | 六十二枚の天気図 | 30 | 撮れなかった一枚の写真 |
| 13 | 学習机 | 31 | 親友 |
| 14 | 言葉の向こうに | 32 | 雨の日の昇降口 |
| 15 | 父の言葉 | 33 | 初めての伴奏 |
| 16 | エルマおばあさんからの「最後の贈りもの」 | 34 | カメは自分を知っていた |
| 17 | やっぱり樹里は | 35 | 「確かめよう」 |
| 18 | 僕たちの未来 |

令和〇年度　道徳科の学習と評価

＜一学期＞

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| NO | 教　材　名 | 内容項目 | NO | 教　材　名 | 内容項目 |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
| ＜評価＞ | | | | | |

＜二学期＞

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| NO | 教　材　名 | 内容項目 | NO | 教　材　名 | 内容項目 |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
| ＜評価＞ | | | | | |

＜一年間（三学期）＞

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| NO | 教　材　名 | 内容項目 | NO | 教　材　名 | 内容項目 |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
| ＜評価＞ | | | | | |

年　　　　組　　　　番　　名前

道徳科について

◇道徳科の目標

「（人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共に）よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」

◇道徳科の内容（4つの視点、２２の内容項目）

**★「Ａ 主として自分自身に関すること」**

自分の在り方を見つめ，望ましい自己の形成を図るために考えたいこと。

(１) 自主、自律、自由と責任

(２) 節度、節制

(３) 向上心、個性の伸長

(４) 希望と勇気、克己と強い意志

(５) 真理の探究、創造

**★「Ｂ 主として人との関わりに関すること」**

自分を人との関わりにおいて捉え，望ましい人間関係の構築を図るために考えたいこと。

(６) 思いやり、感謝

(７) 礼儀

(８) 友情、信頼

(９) 相互理解、寛容

**★「Ｃ 主として集団や社会との関わりに関すること」**

自分を様々な社会集団や郷土，国家，国際社会との関わりにおいて捉え，国際社会と向き合い、

日本人としての自覚に立ち，平和で民主的な国家及び社会の形成者となるために考えたいこと。

(10) 遵法精神、公徳心

(11) 公正、公平、社会正義

(12) 社会参画、公共の精神

(13) 勤労

(14) 家族愛、家族生活の充実

(15) よりよい学校生活、集団生活の充実

(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度

(17) 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度

(18) 国際理解、国際貢献

**★「Ｄ 主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること」**

自分を生命や自然，美しいもの，気高いもの，崇高なものとの関わりにおいて捉え，人間とし

てよりよい生き方について自覚を深めるために考えたいこと。

(19) 生命の尊さ

(20) 自然愛護

(21) 感動、畏敬の念

(22) よりよく生きる喜び

◇道徳科の評価

○　学習活動の中での発言や会話、感想やワ－クシ－トの記録から、より多面的・多角的な見方へと発展

しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか、その学習状況を評価します。

○　数値による評価ではなく、上述の学習状況を記述式で評価します。

○　他の生徒との比較ではなく、いかに成長したか、その様子を認め，励ます評価とします。

○　学期ごとに学習状況を「道徳科　学習の記録シ－ト」にまとめ、通知します。

道徳科　教材分析シ－ト　　　　　　　　　　　　　　　　　　　作成者

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 学  年 |  | 教材名 |  |

＜授業の山＞　この教材で一番考えたいことを明確にする！場面を捉える！

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 場　　　面 | 言　　　動 | 心の動き（どんな考え・どんな気持ち・どんな思い）  　　　　　　　判断　　　　心情　　　意欲･態度 |
|  |  |  |

＜中心発問＞　どう問い掛けるか！どんな意見が予想されるか！

|  |
| --- |
|  |

＜中心発問の前に＞　中心発問を考える前に押さえたいこと！

|  |
| --- |
|  |

＜中心発問の後に＞　中心発問で考えたことを深めるためにどう問い返すか！

|  |
| --- |
|  |

＜主題と内容項目＞

|  |  |
| --- | --- |
| 主題名 | 内容項目　　　（　　　） |

＜ねらい＞

|  |
| --- |
|  |

＜板書＞

|  |
| --- |
|  |

**＜授業メモ＞**

※発言や書くことが苦手な生徒の様子をメモする

※評価活動が授業の妨げにならない程度の走り書き、メモとする。

月　　日（　）　年　　組　授業メモ　　授業者

教材名「　　　　　　　　　　　　　　　　　　」　内容項目　「　　　　　　　　　　　」

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 番 | 名　　　前 | 見ている・読んでいる・聞いている・話している |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |